

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	岩手県立久慈東高等学校 全校生徒557名 保護者・一般来訪者 14名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (文化講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・パラリンピックの実際に触れ、パラリンピックの意義を学ぶとともに、障害のある方々と共生できる社会形成へ興味関心を持たせる。 ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについて学び、スポーツを媒体とした社会全体の動きに目を向けることで、広い視野を持たせる。
5 取組内容	(1) 授業 体育の授業にてオリンピックの起源から振り返る、オリンピックの歴史や意義についての授業を行った。 体育理論のテキストに載っている内容だけでなく、東京オリンピックの広報動画等を用いて、わかりやすく学びやすい授業を行った。 パラリンピックに触れる中では、今回の事業で本校へ講師として来ていただく初瀬勇輔氏の紹介も行った。 

(2) 文化講演会

北京オリンピック視覚障害者柔道競技日本代表の初瀬勇輔氏から講演をいただいた。

初瀬氏の生い立ち、障害者競技に携わったきっかけ、障害者競技の実際やパラリンピックでのことなど、75分にわたって詳細にご講演をいただいた。

初瀬さんの講演では「質問に該当する人は拍手で答える」という活動が随所に取り入れられた。「男子はどのくらいいますか」「柔道をやっている人は」などの質問に対し、該当する生徒が拍手で答えることで、視覚障がいを持つ初瀬氏が全体を把握できるようにするとともに、全体と対話をしているかのような講演であった。生徒は「障がいを持つ人とも工夫1つで楽しく交流ができる」ということが実感できたようだった。

講演後の質疑応答では、生徒から「パラリンピックの舞台ではどのような気持ちで臨んだか」「目が見えない中で、あったら良いと思う物は何か」などの質問があり、質問にも丁寧にお答えいただいた。



6主な成果

ほとんどの生徒にとって、パラリンピアンとの交流、パラリンピック競技の参観が初めてであり、その良さや意義を学ぶことができた。

今回は視覚障害者柔道競技について講師からお話をいただいたが、競技特性として「視野が違ったり、視力が違ったり、あるいは障がいの持たない人とでも対等に全力で勝負することができる」ということが挙げられ、生徒の心にとっても深く残ったようであった。特に、「他競技ならどのようなルールにすれば対等な勝負ができるのか」「他の障がいならどのようなルールになるのか」といった考えの広がりや、「実際に大会に行って試合を見てみたい」という興味関心を持たせることができた。

また本校の介護福祉系列の生徒にとっては、より身近な話として障がいについて学ぶことができ、さらに障がいを抱えながらスポーツや事業に挑戦する方とのふれ合いはとても意義深いものになった。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	・保護者や一般来訪者も参加する行事であり、生徒だけでなく地域の方々へ東京オリンピック、パラリンピックへ向けた取り組みや教育的意義を公表する良い機会となった。 ・地域で盛んなスポーツである柔道の専門家に来ていただくことができ、地域の方々や生徒にとって身近な話として学ぶことができた。 ・体育科だけでなく福祉科と連携し、全校で行う行事としたことで、生徒だけでなく全職員が興味を持ち、生徒とともに学ぶことのできる内容となった。
8主な課題等	「オリンピック、パラリンピックに興味を持った」という生徒がとても多く、「見に行ってみたい」という感想も挙がったため、次は「携わりたい」「参加してみたい」という声をもっと増やしたい。東京から距離のある地域のため「興味はあるけど何をするにも遠すぎる」という意識が強いからではないかと考える。このことを踏まえ、 ・オリンピック、パラリンピックについて、どのような携わり方があるのかを学ばせたい。 ・講師の方に実演する場を提供し実演を交えていただくことで、東京オリンピック、パラリンピックをより身近な出来事として捉えさせたい。 上記のような点を次年度の課題としたい。
9来年度以降 の実施予定	10月…オリンピック・パラリンピックについての事前学習 11月…文化講演会にて講演 感想文・振り返りシートを用いた事後学習の実施